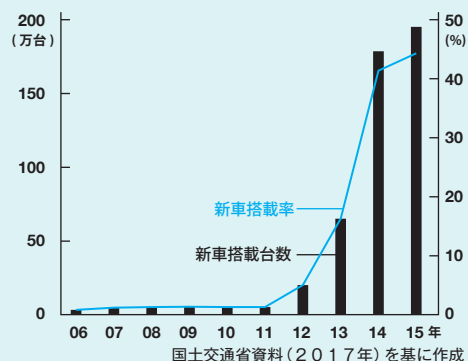


# 先進の安全運転支援システムに対する 正しい理解の普及のために

自動運転技術が注目され、政府が安全運転サポート車（セーフティ・サポートカー、略称：サボカー）の普及を図る中、衝突軽減ブレーキ（いわゆる自動ブレーキ）搭載車の販売比率は 2014 年から急速に増え、2015 年には半数近くの新車に搭載されました。Honda がこの夏発売した軽自動車 N-BOX には、衝突軽減ブレーキ（CMBS）を含む先進の安全運転支援システム「Honda SENSING」(下記参照) が標準装備されています。このような新技術の普及拡大のためには搭載率の向上に加えて、お客様にその機能の効果や限界について正しく理解していただく事が重要です。

国内乗用車メーカー 8 社が生産する新車（乗用車・貨物車）  
に占める自動ブレーキ（対車両）の台数・割合



座学では「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を学習



交通教育センターレインボー埼玉のインストラクターはお客様への「Honda SENSING」の説明と合わせて、安全運転のためのアドバイス方法も指導



前走車・歩行者・対向車との衝突回避または被害軽減のための支援を段階的に行う衝突軽減ブレーキの試乗体験



研修会では参加者が互いにお客様役とスタッフ役になり、わかりやすく説明するためのロールプレイも実施

「Honda SENSING」の正しい理解の普及のためにはお客様に直接手渡しで安全をお届けする営業スタッフの理解がポイントです。そこで、安全運転普及本部（以下 安運本部）は Honda Cars（四輪販売会社）のスタッフがお客様一人ひとりにシステムの正しい説明ができると同時に販売店などでの試乗体験を安全に運営するための研修プログラムを作成。11月に交通教育センターレインボー埼玉で、埼玉県内の Honda Cars のスタッフ 23 名を対象に研修会を試行しました。研修会の座学では、「Honda SENSING」の仕組みと作動原理を学習。その後、実車で衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能を体験し、各機能の能力には効果と限界があるため、過信をせずに安全運転することの重要性を学びます。最後に、お客様に安全運転に向けたアドバイスをするためのロールプレイや理解度を確保するためのテストを行い、1日にわたる研修会は

終了しました。研修会で講師を担当した本田技研工業（株）日本本部営業企画部商品ブランド課主幹の吉田秀彦は「座学と体験によってスタッフの皆さんが「Honda SENSING」への理解を深めることで、お客様によりわかりやすく説明ができると考えています」と話します。参加者からは「実際に体験したことで、機能には限界があることを再認識できました」「衝突軽減ブレーキは、警告音を聞いてから自分でブレーキを踏んでもぶつからずに止まったので、とても安全な機能だと実感できました。お客様に自信を持って勧められそうです」という声が聞かれました。今後は、この研修会を全国で開催していく予定です。受講したスタッフを通じ、お客様の理解を促進していくことで、真の安全の普及に寄与できると考えています。

## Honda SENSING

- ①衝突軽減ブレーキ（CMBS）
- ②誤発進抑制機能
- ③後方誤発進抑制機能
- ④歩行者事故低減ステアリング
- ⑤路外逸脱抑制機能
- ⑥ACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール）

- ⑦LKAS（車線維持支援システム）
- ⑧オートハイビーム
- ⑨先行車発進お知らせ機能

- ⑩標識認識機能
- 詳細は以下のホームページ参照。  
<http://www.honda.co.jp/hondasensing/>

※車種により搭載機能が異なります。